

# であい



公益社団法人  
北海道国際交流・協力総合センター  
HIECC/ハイエック  
(旧 社団法人北方圏センター)  
Hokkaido International Exchange and Cooperation Center

## さっぽろ 留学生日記

「同じ心、同じ気持ち」を持っている

ムハンマド・アラファト・カビールさん  
バングラデシュ共和国  
北海道医療大学大学院  
歯学研究科博士課程(口腔外科)



### 研究終了後は母国で貧しい人たちのために働きたい

母国ではすでに歯科医として働いているが、「歯科学は日に日に進歩しています。日本の技術は進んでいます。優秀な教授陣がいるのでこの大学に留学を決めました」。現在は、歯から欠損した骨を生成する研究をしている。

バングラデシュには貧しくて歯医者に行けない人もいます。「医者である父を見て育ったので、医者になりたいと思いました。父は診察代を貰わずに診ることもありました」。帰国後は、歯科医として自分を必要とする人、貧しい人たちのために仕事をするのが義務だと言う。信念を持って「国のために役立つたいです」と話す姿にイスラム教の教えに通じるものなのか、使命感のようなものが感じられた。

### 当別町での生活に不便はありません

住んでいる当別町は緑が豊かで素晴らしいと手放して気に入っている様子。大学までは地域を走るコミュニティバスで自宅から15分程度の距離。冬に来て、大雪を見て、「寒かった」。が、今は、大学内外に友人もできた。周りの人たちは友好的で100%親切で楽しく暮らしている。バングラデシュ国民も親切で、日本人も「同じ心、同じ気持ち」を持っていると感じたという。

### HIECCからの奨学金に感謝

北海道国際交流・協力総合センター(HIECC)の留学生支援事業から毎月奨学金を受給している。日常の食品の値段が特に高いと感じる一方で、ニンジン1本の値段が信じられないと驚いていた。そんな中で奨学金支援には感謝していると日本語で「ありがとうございます」とお礼の言葉を繰り返していた。

カビールさんはHIECCの「留学生サポーター」としても登録している。これは異文化交流、相互理解、国際理解等のイベントに参加するなど北海道と外国人との架け橋として協力していただく制度である。



## 留学生サポーター・国際交流ボランティア制度のご案内

北海道国際交流・協力総合センター(HIECC)では、地域での国際交流・協力活動を支援するため、道内大学に在籍する外国人留学生や、通訳を行う国際交流ボランティアを各地に派遣しています。

派遣に係る謝礼は不要(但し交通費は除く)ですので、学校や市町村、国際交流団体の皆様はぜひ積極的にご利用ください。

### 留学生サポーター制度の概要

派遣者: 道内在住の外国人留学生(大学院生) / 登録人数: 63名  
派遣内容: 市町村や学校、国際交流団体などが実施する異文化交流、相互理解、国際理解等のイベントへの参加など

### 国際交流ボランティアの概要

派遣者: 国際交流ボランティア(通訳・翻訳) / 登録人数: 道内全域 計62名(英語52名、中国語6名、ロシア語4名)

派遣内容: 市町村や国際交流団体などが実施する交流事業の通訳・翻訳業務の協力など

詳細はHIECCのホームページ(<http://www.hiecc.or.jp/>)をご覧ください。

お問い合わせ先: TEL 011-221-7840(担当:金子・坂田)



派遣先での留学生サポーター

## 北海道災害支援多言語サポーター募集

HIECCでは、災害時に正確で最新の情報を届けるなど被災した外国人を「言語面」でサポートするサポーターを募集しています。

### どのような活動を?

被災地の依頼に基づいて、被災地の自治体の職員またはHIECC職員と協力して、

- 外国人被災者のいる避難所を巡回、通訳などをする
  - 災害対策本部などから発表された情報の翻訳をする
- サポーター活動に対する報酬はありませんが、移動に際しての交通費は支給されます。平時には当センターが行う研修会や避難訓練に参加して研修などをします。

### どのような資格?

- 実用会話が可能なレベルの語学力を持つ方
- 北海道在住の20歳以上の方(国籍は問いません)

### 登録申込先・お問合せ

公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター(HIECC/ハイエック)へ申込書を送って下さい。  
※申込書はこちらからダウンロードできます。  
URL <http://www.hiecc.or.jp>  
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館12階 HIECC交流部  
TEL: 011-221-7840 FAX: 011-221-7845  
E-mail: [exch@hiecc.or.jp](mailto:exch@hiecc.or.jp)

## facebook

フェイスブック・ページ開設しました 平成24年11月1日にフェイスブック・ページを開設しました。事業の告知、事業の報告、定期刊行物の紹介等を掲載していく予定です。HIECCホームページからリンクするかフェイスブック上で「北海道国際交流・協力」で検索をかけると表示されます。事業に参加された方や、国際交流や国際協力に興味ある方からの書き込み大歓迎ですので、是非ご利用ください。(調査研究部)



公益社団法人  
北海道国際交流・協力総合センター  
HIECC/ハイエック  
(旧 社団法人北方圏センター)

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館  
発行日: 2012年12月7日  
TEL.011(221)7840 FAX.011(221)7845 <http://www.hiecc.or.jp>  
E-mail: [pbl@hiecc.or.jp](mailto:pbl@hiecc.or.jp) (調査研究部) [intc@hiecc.or.jp](mailto:intc@hiecc.or.jp) (国際協力部)  
印刷: 岩橋印刷株式会社



## 特集

# 北海道国際交流センター(函館市)、「世界ガチャガチャ夜市」で賑わう

## 映画「Sing for DARFUR」と「難民を助ける会」の講演会も

(財)北海道国際交流センター(hif. 函館市元町14-1)では9月6日(木)、7日(金)の両日、「世界に触れてみませんか?」と「世界ガチャガチャ夜市」と銘打ったイベントを開催した。世界の雑貨販売や料理(ウガンダ、オランダ等。そして沖縄のあおさの天ぷら)、パオバブ・アンサンブルによるアフリカン太鼓の生演奏等を繰り広げた。プログラムの中から、映画「Sing For DARFUR」の上映会、認定NPO法人「難民を助ける会」の南スーダン共和国での支援活動についての講演会を紹介する。



### 映画「Sing for DARFUR」を上映

冒頭とエンディングで聞き慣れない言葉の子どもの声が「(字幕)♪パパとママのために…、スーダンのために…、ダルフルのために学びます…♪」と歌う。景色などは映らない。ダルフルとは、アフリカ、スーダン共和国の西部、チャド等と接する地域。2010年2月に即時停戦を含む合意が成るまで、アラブ系(遊牧民)とアフリカ系(農耕民)が対立してダルフル紛争と呼ばれる内乱が続いた。この内乱で死者は約20万、数百万人の難民が隣国チャドへ逃れたといわれる。

映画は、ダルフルのためのチャリティコンサートが開かれる日のスペイン、バルセロナの1日を追う。人々はそれぞれの問題を抱え、ダルフルとは無関係にその日を生きている。アフリカのことなど知らない、知りたくない人々の現実があることを描いた作品。(ヨハン・クレマー監督。スペイン・オランダ合作/2007年/モノクロ79分 ©Sing for Darfur powered by PLUS heads inc.)

### 特別講演「独立から1年、南スーダンに平和は訪れているか?」

AARJapan「難民を助ける会」(東京都品川区 URL:<http://www.aarjapan.gr.jp>)の名取郁子海外事業部長が、独立後の南スーダン共和国での支援活動について語った。

同会は、1979年「インドシナ難民を助ける会」として発足し、これまで55を超える国・地域で活動してきた国際NGO。現在世界15カ国で、被災者・難民への緊急支援、地雷被害者・障害者への支援、地雷・不発弾対策としての教育・支援、HIV/エイズ対策・マラリア予防等の活動を、また国内では報告会・講演会等を行っている。

スーダンでは1956年の独立後も紛争や南北対立が続いたが、2010年4月総選挙、2011年1月南部の分離独立を問う住民投票を経て、同年7月南スーダン共和国の独立に至った。名取講師は、2005年の南北内戦が終了後南部スーダンでインフラ整備、診療所の開設、保健ボランティア育成などに携わった。長年の海外生活の中で、「この世にこんな不平等があっても良いのか」と疑問を持ち、「困難な状況に置かれている人々をフルタイムで手助けしよう」と、それまでの仕事を辞めて、AARに参加した。「理解したいと思えば現地に行かなければならないこともあります」、「1週間に10分間でも“大変”な事をやり遂げて下さい」と支援活動に携わる気持ちを明かしてくれた。



講師の名取氏



夜のバル街

### 2012 BAR-GAI(バル街)の賑わい

この日、函館山の麓、西部地区一帯では秋のBAR-GAI(バル街)が開かれ、市民などが地図と5枚綴りのチケット(前売り3,500円)を手にお目当ての飲食店を巡り歩いた。BAR(バル)とはスペインの立ち飲み屋、喫茶、食堂などを兼ねた庶民の交流の場。BAR-GAI参加店では、チケット1枚で飲み物1杯と自慢のピンチョス(1品料理)を提供する。街は夜遅くまで賑わっていた。



## 身近な国際協力と国際交流

…外国人医療サポートと異文化交流のNGO

特定非営利活動法人エスニコ  
代表理事 芦田 科子さん

私たちの住む北海道でも、多文化共生は確実に進んでいます。知人に外国人がいるという方も少なくないでしょう。言葉や文化が異なるために医療の現場で困っている彼らに対し必要なサポートをすることが、エスニコの「身近でできる国際協力」です。

エスニコは2001年5月に任意団体として設立、同年9月にNPO法人としてスタートしました。当時、北海道では、外国人住民に対する医療のサポート体制が皆無でした。しかし外国人患者には、適切な医療を受けるために言葉などのサポートが必要とされていました。ならば誰かが始めなければ…という理由で活動を開始し、今も手探りで続けているのです。この11年間に、150件を超える医療通訳ボランティア派遣、多言語問診票の作成と配布、計4回の外国人医療を考えるフォーラム開催、数回にわたる医療通訳ボランティア養成講座実施、各種外国語の



医療通訳研修会の様子

会話教室や医療通訳対象の研修会を年間数十回実施し、随時外国人医療相談にも対応してきました。現在は外国人も含め120名の個人会員が、多忙な日々の中も努力を惜まず活発な活動を重ねています。

しかし、未だに外国人医療の現場では、言葉や医療文化、制度、医療費などの難しい問題が山積みです。これからは全国の活動事例やNGOのネットワークを基に、行政、医療機関、学術機関、外国人、そして何より一般市民が協力して「外国人も安心できる医療と福祉」を築いていく時代だと思います。

活動を続ける秘訣は共通の理念を持つ仲間と自主的に且つ楽しく動くことです。エスニコでは美味しい異国の料理を紹介する異文化クッキング(年4回、計42回実施)や外国人住民との交流も実施、同じ市民としての関係を大切にしています。

皆様のご協力とご参加を心から歓迎いたします。

特定非営利活動法人 エスニコ  
〒060-0061 札幌市中央区南1条西8丁目6-2 CITYビル7F-B  
電話：011-211-0105/FAX：011-211-0903  
Email：s25@ngos25.org/URL：http://www.ngos25.org/  
OPEN時間：平日13:30~18:00  
★活動内容によって変更あり。まずはメール・FAXまたはお電話ください。



「異文化クッキング」。トルコ料理を堪能



全員で島武意海岸でパチリ

## 平成24年度「国際交流会 in 積丹」

積丹町教育委員会が主催する「国際交流会 in 積丹」が11月17日(土)と18日(日)の2日間で行われ、北海道海外技術研修員や札幌近郊の大学に通う留学生などから成る9カ国12名が参加した。

12名の参加者は町内の小学校4校と中学校1校を

1人ずつに分かれて訪問。子どもたちはお菓子作りや日本の昔遊び等の活動を準備し、一方、留学生も写真などを多く使った発表資料で言葉や文化についてお話ししたり、お国の踊りを披露するなど互いのことを学びあえる貴重な機会となっていた。

学校給食を初めて経験した留学生は「子どもたちが配分を考えながら配膳する姿に感銘を受けた」と語り、また「自分だけではもったいないと思えるほどの素晴らしい経験だった。一人でも多くの留学生に参加してほしい」と興奮気味に話す人もいた。各学校での交流を終えた後は、子どもたちからもらったお土産や写真を見せ合い学校でいかに楽しい時間を過ごしたかを自慢しあっていた。

12回目の開催となるこの事業。子どもたちは留学生と過ごした楽しい時間の中で世界をより身近に感じられるようになり、また留学生は積丹町民や子どもたちの温かさやおもてなしに触れ最高の思い出を作ることができたようだ。



メキシコの留学生、「スペイン語で話してみよう」



手作りのプレゼントに笑みか

## 各地で「多文化共生」講演会

9/8  
函館市

### 金城さつき氏講演 「多文化共生うちなーんちゅ論」

(財)北海道国際交流センター(函館市)では、今年度「外国人住民サポーター養成講座」(全7回シリーズ)の第3回として(財)沖縄NGOセンターの金城さつき氏を講師に迎え「多文化共生うちなーんちゅ論・今、沖縄が直面する多文化共生」と題し、ワークショップ形式で講演会を行った。\*うちなーんちゅ=沖縄県人の呼称

まず、沖縄を取り巻く海外との「つながり」についての話があった。人口約140万人の沖縄県における外国人登録者数は約9,200人だが、米軍の軍人・軍属を含むと47,000人を超える。沖縄には日本にある米軍基地の74%が集中しており、生活面や文化面において基地がプラスの役割を果たした側面もあるが、米軍による訓練事故等に市民が巻き込まれるなど、県民が大きな犠牲を払ってきたマイナス面があることも否めない。また、県外だけでなく海外に渡った移民は30万人と戦前戦後を通じて他府県に比べ多く、海外移住者の一番多い県である。

他県とは異なる多文化的背景がある沖縄だが、若い世代にはこの「つながり」に対する意識の低下がみられるため、沖縄NGOセンターでは学校と連携を図り、ワークショップ形式の出前

講座を実施。基地のことや海外に移住したうちなーんちゅのことを学びながら、「沖縄がどうして海外とつながっているのか?」「なぜ沖縄県人が海外へ渡ることになったのか?」などを考える中で、沖縄にある「多文化共生」について考える取り組みを実施している。

参加者は実際に学校の現場で使用している教材を使いながら、沖縄県の「多文化共生」について話し合いを通して理解を深め、異なる背景を持つ沖縄県民の話や聞くことで、北海道で出来る多文化共生の取り組みを多角的に考えられる機会になった。



金城さつき氏

9/24  
滝川市

9/25  
帯広市

### 田村太郎氏講演 「平成24年度多文化共生促進講演会」

北海道においても諸外国からの観光客をはじめとする外国人滞在者が増加し、道内各地域における経済と外国人との関係が密接になってきていて、外国人の受入や多文化共生を切り口とした地域の発展や地域づくりを考える時代になっている。HIECCではここ数年、外国人も暮らしやすい地域づくりを推進する「多文化共生事業」に取り組んでいる。今回は、(特)多文化共生センター大阪代表理事、復興庁上席政策調査官など多文化共生推進に取り組んでいる田村太郎氏を講師に、滝川市と帯広市において「多文化共生」を地域活性化の切り札として

推進する利点や災害時における多文化共生の取組について紹介する講演会を開催した。(滝川市マリアージュ・インベルコ/帯広市とかちブラザ)

滝川市での講演では、石巻市の商店街における外国人参入の事例などを紹介しながら、商店街活性化に向けての取り組みについて、また帯広市では少子高齢化や人口減少する

中で生産年齢層の規模を維持するには、北部ヨーロッパ諸国のように移民をサービス業の分野で受け入れて家事支援などに携わってもらい、夫婦共働きを可能にする仕組みづくりを考える必要があることなどが話された。

両市での講演を通して、多文化共生は国際的にみれば社会統合であり、国としてみれば外国人が滞在しやすい地域をつくることで女性に働きやすい社会、高齢者に暮らしやすい社会をつくることにつながると、多文化共生の大切さを強調した。



帯広市



滝川市



田村太郎氏